

1. 園の教育目標

- ①明るく ②心ゆたかに ③たくましく

2. 本年度、重点的に取り組む目標・計画

- ◎育児担当制を通しての個々の育ちの把握と生活習慣の自立の援助
- ◎乳児の発達の理解と発達に応じた環境作り
- ◎わらべうた、運動遊びの習慣化
- ◎保護者に伝わる発信方法への取り組み
- ◎年間計画に沿っての訓練を行い、安全・防犯についての知識を深める

【3】の評価結果の表示方法
A 十分達成されている
B 達成されている
C 取り組まれているが、成果が十分でない
D 取り組みが不十分である

3. 評価項目の達成及び取組状況

評価項目	結果					理由
	A	B	C	D	計	
◎育児担当制を通して個々の育ちを把握し、それに応じた援助ができたか ・担当制を通して愛着を形成し、情緒の安定を図る。 ・日課をたてて毎日繰り返すことで、子ども自身が日課に参加し、見通しを持って生活するようになる。 ・1人1人の成長に応じて丁寧に生活習慣の援助を行う。	1	6	0	0	7	・子ども一人ひとりに応じた援助ができた ・3クラスの日課の流れやクラスの様子をリーダー会議や会議で話し合う機会が持てたが充分ではなかった ・日課の基本的な流れを変えなかったことで子どもが見通しを持って生活することができ、自ら日課参加し行動する姿が見られた
◎乳児の発達に応じた環境作りができたか ・玩具リストを作成し、0～2歳児のどの時期にどの玩具が適しているのかを明確化する。 ・季節や育ちに応じて、定期的に環境を考える。 ・子どもの育ちや発見などを観察し、それに応じた環境を保育者同士で話し合い、用意する。	1	3	3	0	7	・子どもの発達に応じて玩具を用意し、環境作りを考えることはできていたが玩具リストや環境配置の図面化は取り組みが難しかった ・写真を利用しての季節感の取り入れなどの工夫はできた ・手作り玩具は増やせたが保育者間で玩具について話し合い、共通理解を持ち、環境作りにかさずべきだった
◎わらべうた・運動遊びを習慣化する ・計画を立てて定期的に取り組むようにする ・発達や体力向上を意識した取り組みをする	1	3	3	0	7	・運動遊びは充分取り入れることができたが、わらべうたをもう少し習慣にして行くべきだった ・ふれあいあそびは意識して取り入れスキンシップに役立てた。 ・戸外遊びの環境作りでは、体育講師のアドバイスのもと発達に応じた環境を意図的に作る事ができた
◎保護者に伝わる発信が積極的にできたか ・保護者に伝わる発信を積極的かつ専門的に行うようにしていく。 ・この活動(遊び)によって何が育つかなどを伝える。 ・保育士一人ひとりが子どもの成長発達過程を頭に入れ、それを意識した伝え方を心がける。 (ただの出来事の報告にならないよう) ・ドキュメンテーションなどで子どもの成長を可視化していく。	0	5	2	0	7	・保護者への発信はHPで週1～2回のペースで行うことができたが、その中に発達に即した環境作りや意図的なかかわりについても意識して多く書くようにしていくべきだった ・ドキュメンテーションはHPとの両立が難しかった。2歳児は簡単なものではあったが定期的に行っていた ・送迎時に育ちについて伝えることができた ・連絡帳や懇談会などで子ども達の発達や気づき、発達に応じた援助の仕方などを伝えることは出来ていた ・可視化が難しかった
◎安全・防犯・防災について計画に沿った訓練を行い、さらに知識を得ることができたか ・防犯グッズの定期的確認、状況に応じた連絡方法と保護者への連絡の仕方などのマニュアルの共通理解	0	7	0	0	7	・訓練は定期的に行っていたが知識の共通理解という段階までは到達していない

4. 今後取り組むべき課題

課題	考えられる具体的な取り組み
ドキュメンテーションについて	何月にするか、学期ごとに何回するのかなど全体で決める
防災マニュアルの共通理解について	連絡方法、保護者への連絡の仕方などはすぐ目につく避難訓練計画書にはさんでおく
子どもの発達、この活動で何が育っていて何が環境作りに必要なのかを話し合う専門性を高める取り組み	ビデオ、写真などを活用した事例をあげて検討する研究会を行う
手作り玩具を増やす	年齢や時期に応じた玩具の話し合いをする
環境構成の図面化	環境構成の定期的な見直しをし、図面化にして検討していく資料に活用していく
わらべうた	職員間でわらべうたを共通理解し、資料を用いながら保育に取り入れていく
防犯グッズの定期的確認	年間スケジュールを決め、必要な物のリストを作り、定期的を確認する日程を決めておく